

各種の緊急対策や構造改革により、収益構造の改善を進め

2010年3月期第2四半期 3つのキーワード

厳しい環境が続く中、収益構造が改善しています。

緊急対策等の実施により、売上原価および販売管理費の低減活動を進め、損益分岐点を引き下げました。

中国を中心に海外売上高は回復傾向にあります。

中国を中心とするアジア・パシフィック地域において、断続的な業績回復傾向がみられます。国内売上高は、少し出遅れていますが、第1四半期を底に、回復傾向にあります。

LED照明ビジネスが伸長しています。

大手コンビニエンスストア等に採用いただくなど、2009年3月に開始したB to B“オーダーLED照明”ビジネスが順調に立ちあがっています。

Q 2010年3月期第2四半期連結累計期間の業績について教えてください。

A 米国発の金融システムの混乱が、世界各国の実体経済の混乱にまで波及した昨年度に引き続き、当第2四半期においても、非常に厳しい経営環境が続きました。

国内については、依然設備投資の抑制傾向は続いており、回復の速度は鈍いものの、第1四半期を底として、ゆるやかな回復傾向がみられました。海外については、主力の制御用操作スイッチやリレーといった制御機器

製品において、中国をはじめとするアジア・パシフィックや北米地域で回復傾向が見られました。

そのような中、当第2四半期は、国内売上高が、60億7千2百万円(前年同期比42.0%減)、海外売上高は、37億6千6百万円(前年同期比36.7%減)となり、連結全体の売上高は、98億3千8百万円(前年同期比40.1%減)となりました。

利益面では、継続的なコストダウンに取り組み、前期に比べ、約16億円の固定費を削減していますが、売上の減少に伴う売上総利益の減少を吸収するにはいたらず、当第2四半期は8億7千3百万円の営業損失となりました。



2009年11月

代表取締役会長兼社長

船木俊之

ています。

Q 今後の見通しについて教えてください。

A 2010年3月期下期についても、厳しい経営環境が続くものと予想しており、通期連結業績見通しは、売上高が210億円、営業損失12億円、当期純損失7億5千万円としています。

本格的な景気回復までには、まだ時間を要すると考えていますが、当社グループでは、この厳しい経営環境を次の成長に向けたチャンスであると捉え、ものづくりの原点に立ち返り、各種の事業構造の改革を推進しています。

また、IDECグループ長期経営ビジョンにもとづき、スイッチをはじめとす

る主力製品群において、成長が期待される業界やエリアに向けた積極的な製品投入と販売リソースの強化を推進することにより、強いものをより強く、さらにその競争力を高めていきます。

同時に、環境や安全といった社会的要請の高まっている分野においても、IDECグループが長年培ってきた技術を活用し、新規事業を含めた新たな展開への取り組みを進めていきます。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第2四半期連結累計期間(中間)

売上高
9,838 百万円

営業損失
873 百万円

経常損失
826 百万円

四半期純損失
441 百万円

中間配当(1株当たり)
10円

